

# 保険薬局におけるポリファーマシー に対する意識調査と変移

一般社団法人 小倉薬剤師会 学術委員会

●浅田 律子、山田 真裕、柿本 昌信、松田 亜希子、鈴江 晃平、  
平川 涼、重藤 憲司、伊藤 孝泰、森 康弘、仙敷 義和

# 第83回九州山口薬学大会 利益相反の開示

筆頭演者名： 浅田 律子

私は今回の演題に関連して、  
開示すべき利益相反はありません。

# 【背景】

近年の高齢化の進展に伴い、加齢に伴う生理的な変化や複数の併存疾患を治療するための医薬品の多剤服用等によって、安全性の問題が生じやすい状況がある。このような状況下、薬剤師には有効性・安全性などの様々な視点で**患者の薬物療法を適切に支援することが求められている。**

**小倉薬剤師会は小倉医師会と協力し、2017年から多職種を対象とした「ポリファーマシー対策研修会」を定期的に企画し、会員薬局へ講義や症例を通してポリファーマシーに関する学びの機会を多く提供してきた。**

# 【目的】

研修会開始から6年半が経過し、保険薬局におけるポリファーマシーに対する理解の現況の把握と、6年前と現在との変化を明らかにすることを目的に、小倉薬剤師会会員薬局を対象にアンケート調査を行った。

# 【方法】

無記名式のアンケート調査を実施。

調査期間：2017年1月17日～1月31日

調査対象：（一社）小倉薬剤師会会員薬局

無記名式のWebアンケート調査を実施。

調査期間：2023年10月2日～10月27日

調査対象：（一社）小倉薬剤師会会員薬局

## 【結果】

2017年の回収率：72.7%

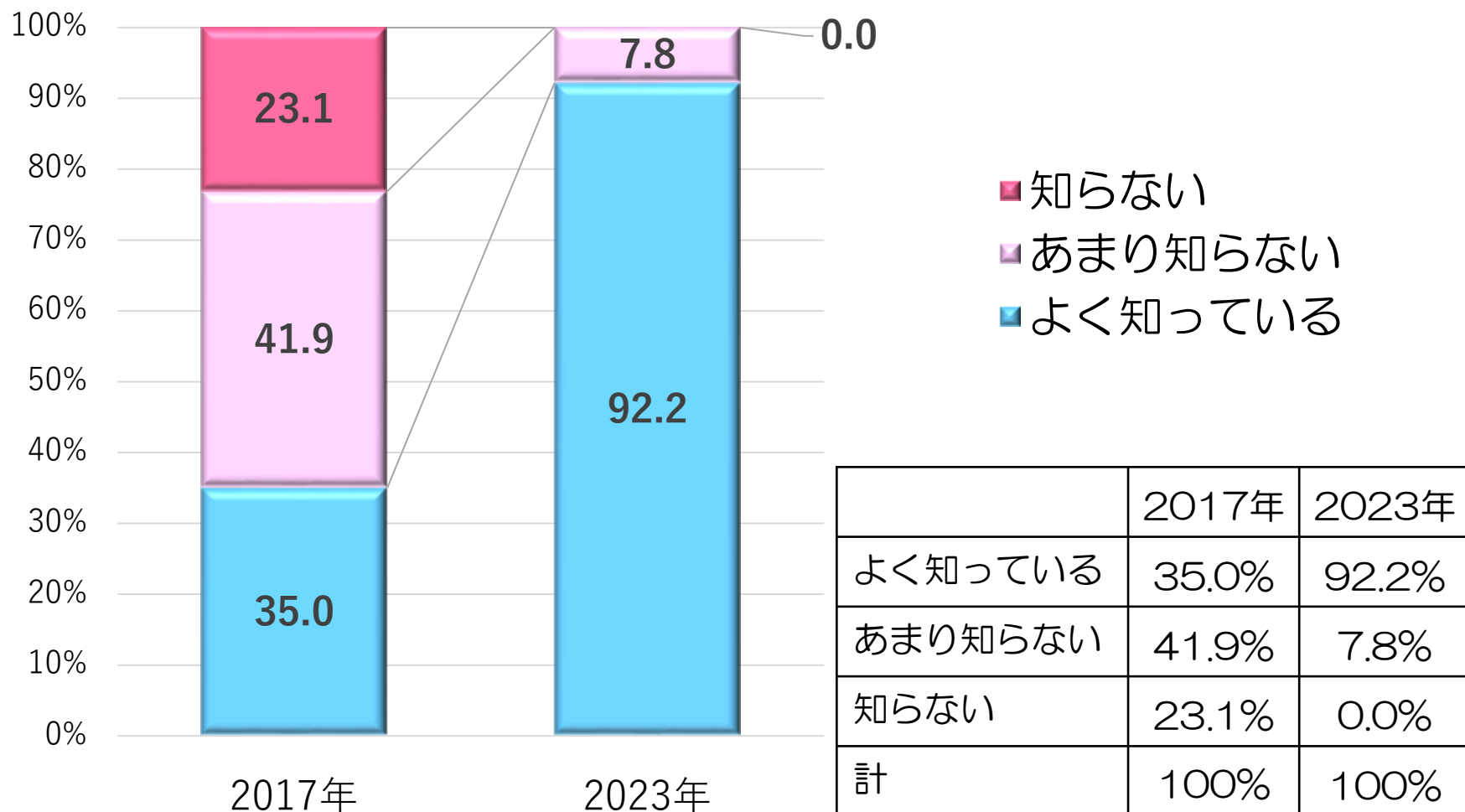
（220薬局中、160薬局が回答）

2023年の回収率：31.5%

（203薬局中、64薬局が回答）

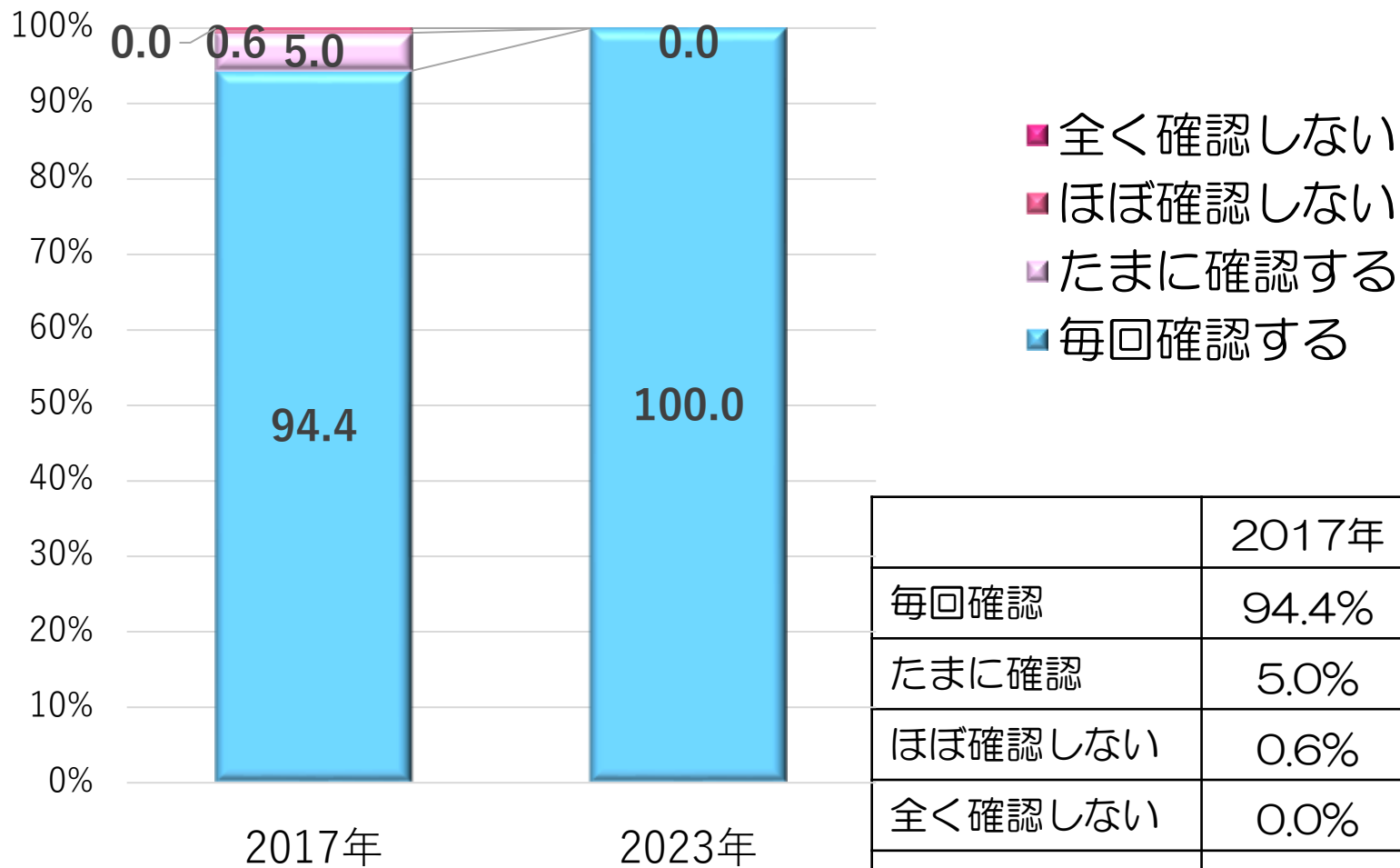
# 結果①

## 1) 「ポリファーマシー」という言葉をご存知でしたか？



# 結果②

## 2) お薬手帳（併用薬）の確認はされていますか？

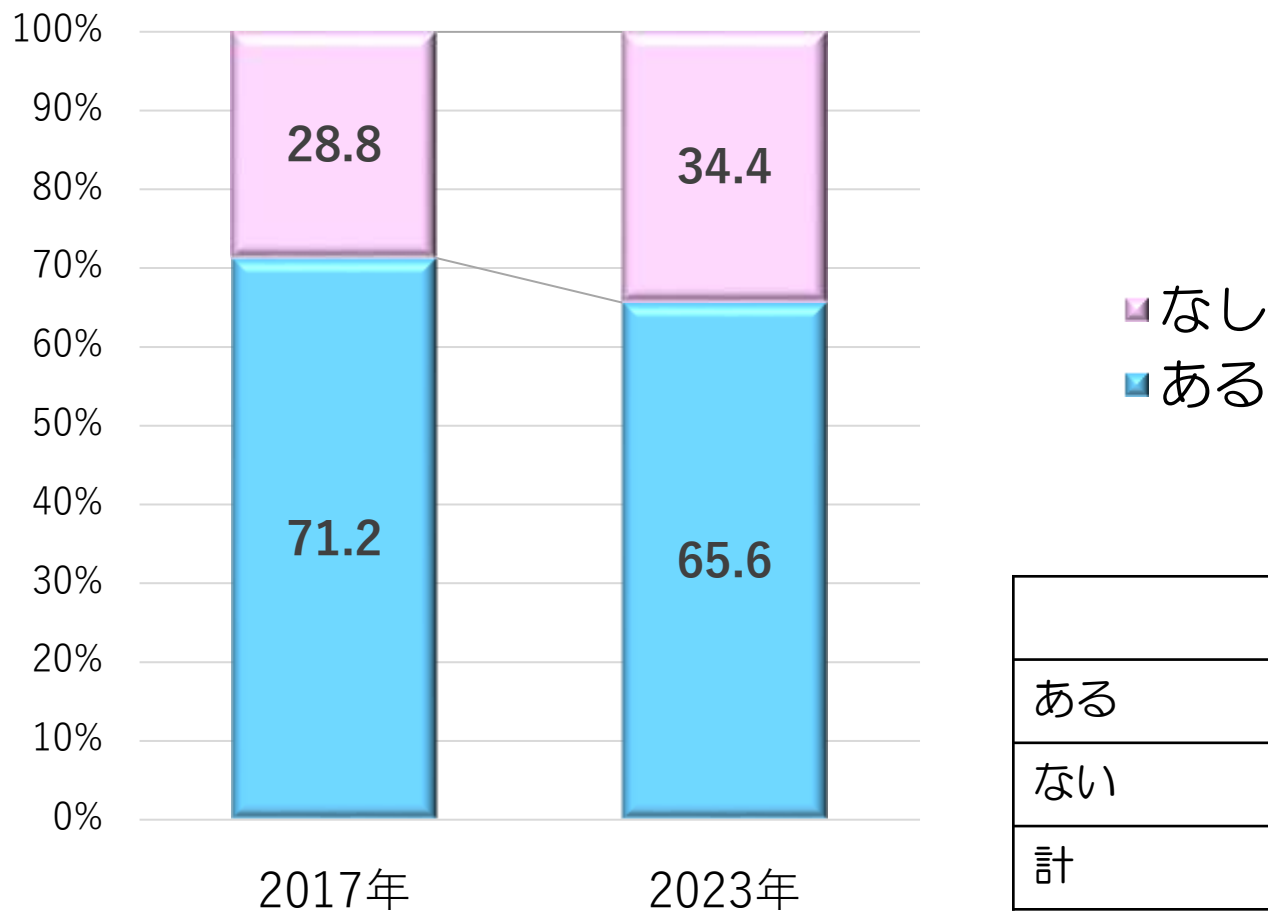


	2017年	2023年
毎回確認	94.4%	100%
たまに確認	5.0%	0.0%
ほぼ確認しない	0.6%	0.0%
全く確認しない	0.0%	0.0%
計	100%	100%



# 結果③

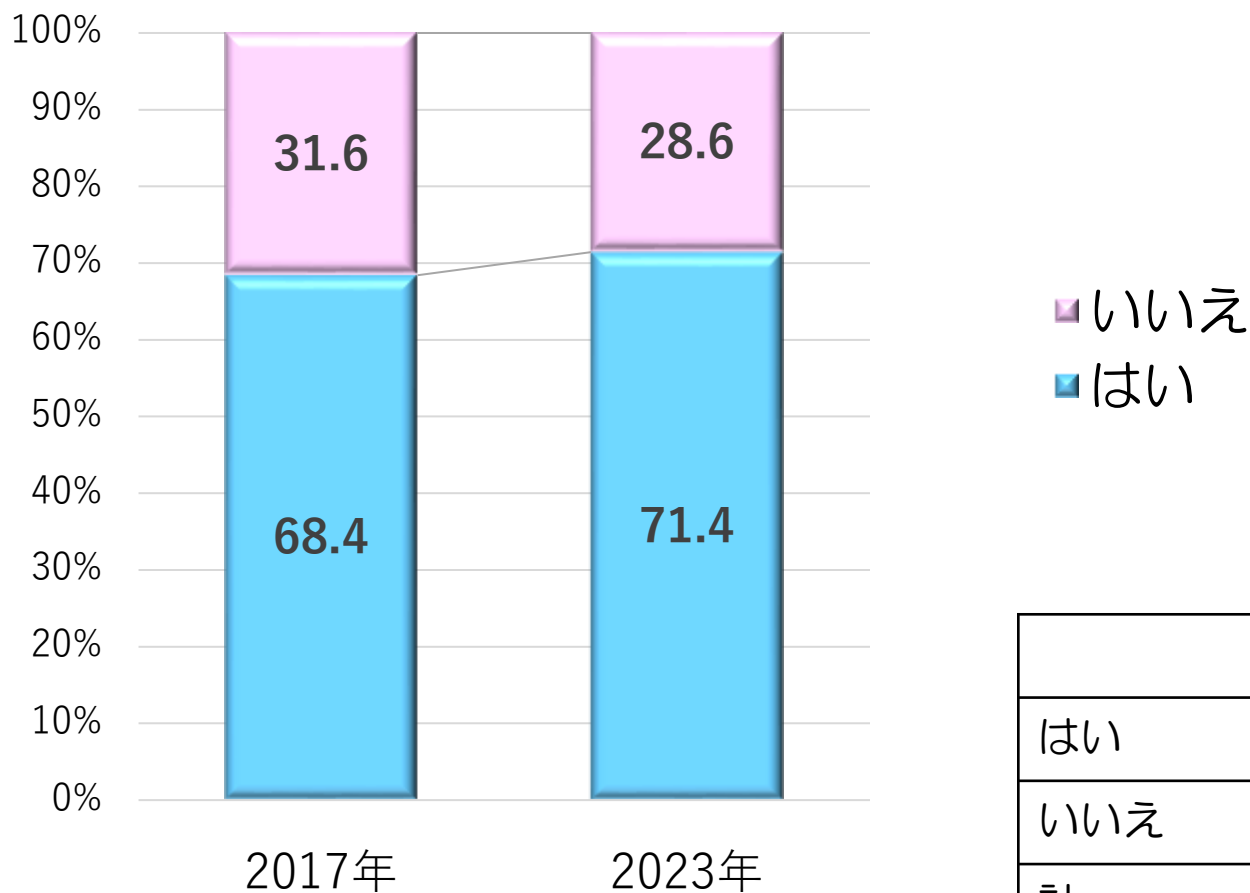
3) 患者から、現在服用している薬の種類が多いと相談されたことはありますか？



	2017年	2023年
ある	71.2%	65.6%
なし	28.8%	34.4%
計	100%	100%

# 結果③-1

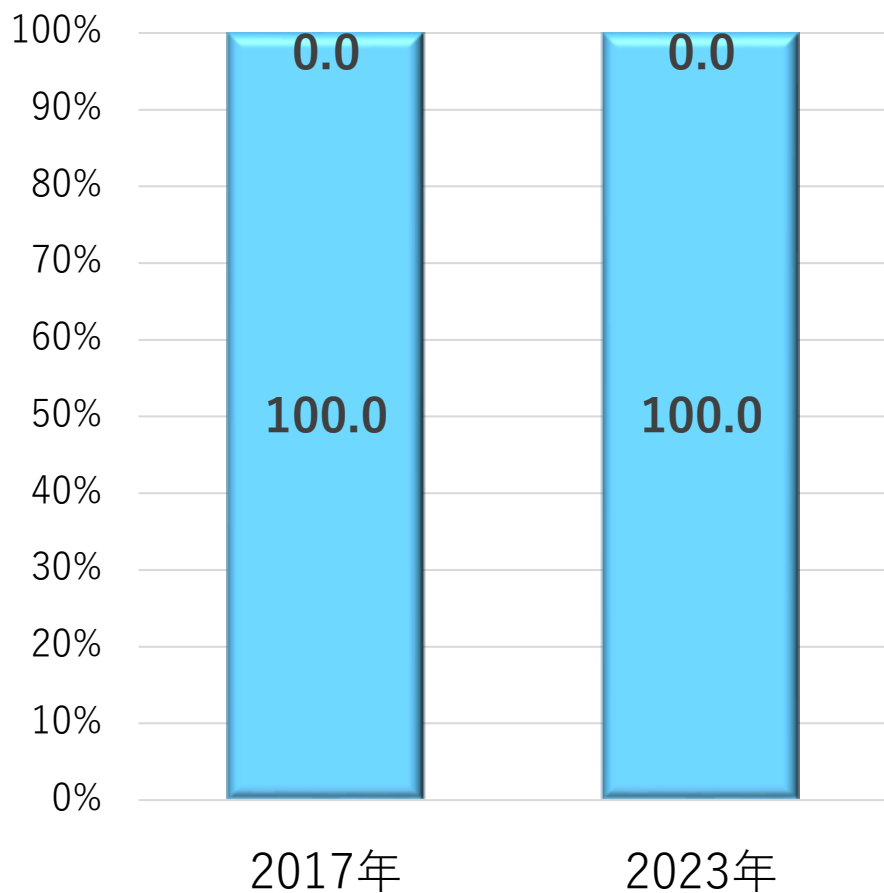
3-1) その相談を受けて服用数を減らすことができましたか？  
( (3) であると答えた方のみお答えください。 )



	2017年	2023年
はい	68.4%	71.4%
いいえ	31.6%	28.6%
計	100%	100%

# 結果④

4) 服用している薬剤に重複がみられた場合、疑義照会をして減薬に努めていますか？

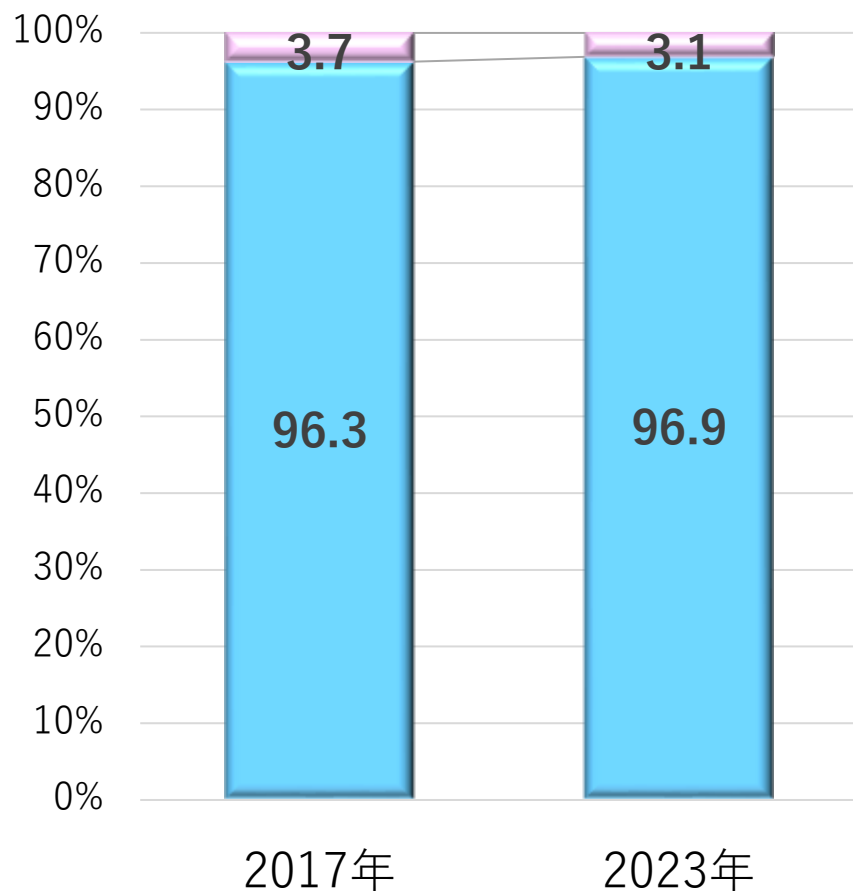


■ いいえ  
■ はい

	2017年	2023年
はい	100%	100%
いいえ	0.0%	0.0%
計	100%	100%

# 結果⑤

5) 相互作用が懸念される場合、処方医に疑義照会をしていますか？

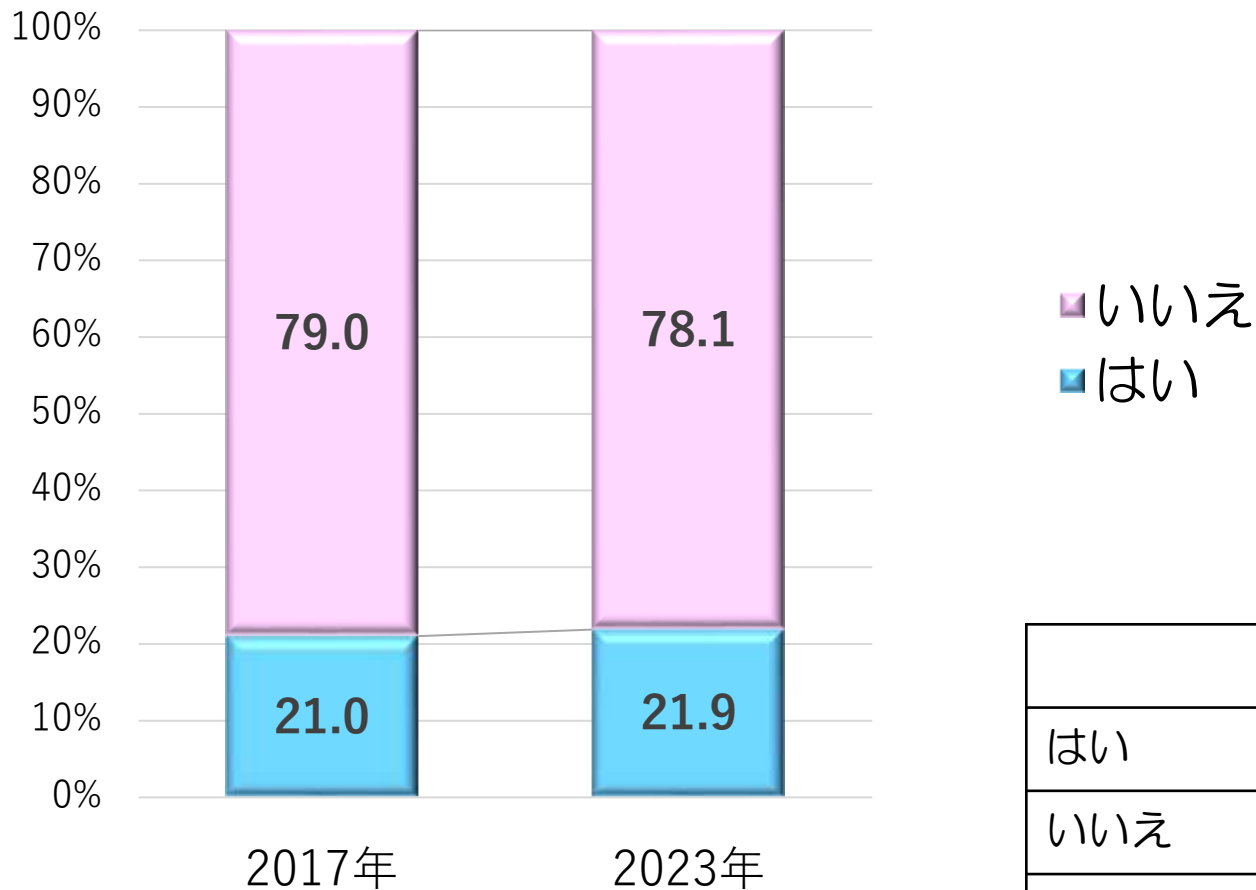


■ いいえ  
■ はい

	2017年	2023年
はい	96.3%	96.9%
いいえ	3.7%	3.1%
計	100%	100%

# 結果⑥

## 6) 併用や過剰服用による有害事例を経験されたことがありますか？



	2017年	2023年
はい	21.0%	21.9%
いいえ	79.0%	78.1%
計	100%	100%

# 結果⑥-1

## 経験された有害事象の実例

- 抗コリン薬とコリン作動薬の矛盾処方。
- ツロブテロール貼付剤、プロカテロール塩酸塩ドライシロップ、サルブタモール硫酸塩吸入液の併用による動悸。
- 内科と整形外科でお薬手帳を2枚持っており、確認したところ重なっている薬（貼付薬と胃薬）があった。
- 睡眠薬の過剰服用で意識喪失し転倒。
- デュロキセチンカプセルの増量後の吐き気。

など

# 結果⑦

7) ポリファーマシーに対して薬剤師ができることは何だと思えますか？

- お薬手帳を一冊にまとめ併用薬のチェック。
- 医師に減薬の提案。
- 医師や患者さん自身とのコミュニケーション。
- 患者さんとのコミュニケーションをとり、医師への報告確認。
- 患者さんとの関係づくりが一番必要。たくさん飲むことで安心に思う人もいれば、多くて嫌な人もいる。
- 患者さんに薬を減らしたいと思っていないかを聞き取り、それに対して処方医への減薬を提案する。  
など

# 【考察】

- 「ポリファーマシー」という言葉を理解している薬剤師がこの6年間で大幅に増えた。
- ほぼ全ての薬局において、お薬手帳の活用や医師への問い合わせにより、患者の要望に寄り添ったポリファーマシーの解消を実践しようとしている。
- 患者から、現在服用している薬の種類が多いと相談されたことがある割合は約65%であり、大きな変化は見られなかったが、その相談を受けて、真摯に対応していると考えられる。また、併用や過剰服用による有害事例を経験された割合も6年前とあまり変わらず約20%であった。



# 【まとめ】

今後も続く高齢化社会では、薬物療法を適切に支援することは、薬剤師の重要な責務の1つである。

小倉薬剤師会は、引き続き会員薬局の先生方の自己研鑽に役立つよう、ポリファーマシーも含めた様々な学びの機会を提供していくことが必要であると考えている。

今後医師・歯科医師・看護師・介護支援専門員等の多職種での連携を図り、地域住民の健康増進に寄与していきたい。